Economic Indicators

発表日:2023 年 6 月 7 日(水)

景気動向指数(2023 年 4 月)

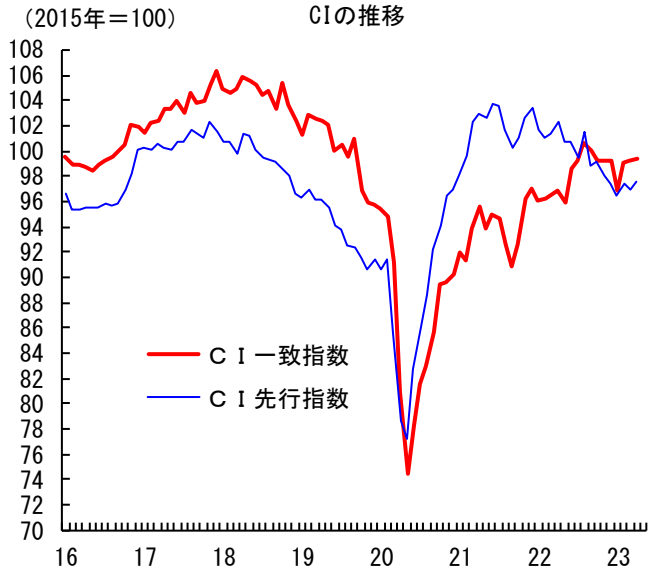
～足踏み状態からは脱せず～

第一生命経済研究所
シニアエグゼクティブエコノミスト　新家　義貴
(TEL:050-5474-7490)

横ばいでの推移が続く

内閣府から公表された 2023 年４月の景気動向指数では、ＣＩ一致指数が前月差＋0.2 ポイントとなった。内訳では、小売業販売額や鉱工業生産指数などがマイナス寄与になる一方、輸出数量指数や投資財出荷指数が押し上げ要因となり、ＣＩ全体では小幅プラスとなっている。

ＣＩ一致指数は３ヶ月連続の上昇とはいえ、上昇幅はごく僅かで回復感はない。プラスの過去３ヶ月を振り返っても、２月（前月差＋2.3 ポイント）は１月（前月差▲2.4 ポイント）の落ち込みからの反動に過ぎず、３月（前月差＋0.1 ポイント）、４月（同＋0.2 ポイント）もゼロ近傍にとどまる。昨年秋以降、均してみればほぼ横ばいでの足踏みが続いている状況に変化はみられない。



(出所)内閣府「景気動向指数」

基調判断は「足踏み」持続

４月のＣＩ一致指数の基調判断は、５ヶ月連続で「足踏み」となった。内閣府による「足踏み」の定義は「景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す」である。

先行きについても、当面回復感に欠ける状態が続く可能性が高い。ＣＩ一致指数と関連が深い鉱工業指数でも、５月の製造工業生産予測指数の経済産業省試算値は前月比▲2.6%と下振れが見込まれている。供給制約の緩和による挽回生産で自動車生産は好調に推移する可能性が高い一方、海外経済の減速に伴う輸出の下振れが足を引っ張ることが予想され、全体としてみれば当面足踏み状態から脱することは難しいだろう。目先、基調判断が「下方への局面変化」や「悪化」に下方修正される可能性は遠のいたものの、「上方への局面変化」に上方修正されるハードルも高い。当面「足踏み」の判断が継続する可能性が高い。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。